

会期：10月4日(土)～11月30日(日)

今回、対象とした金目川水系の範囲は、平塚市、伊勢原市、秦野市の大部分と、厚木市、大磯町の一部に及びます。このエリアの“川と水”にテーマを絞りました。具体的には、川の流路変遷、治水や水利など川と水をめぐる人々のドラマ、川と水への信仰、川と水辺の自然です。このように“川と水”といっても内容は多岐にわたるため、博物館の地質・考古・歴史・民俗・生物の5分野が関わり、自然と人文から複合してアプローチすることにしました。こうした複合分野が有機的に絡み合った特別展は、総合博物館であるからこそ可能であり、地域博物館としての使命の一つでもあります。



桜ヶ丘から見た花水川

■関連行事

○金目川を歩く

【内容】花水川の河口から源流付近の大山阿夫利神社下社まで4回に分けて歩き、金目川の自然と文化を観察します。【日程・行程】〈第1回〉10/18(土)花水河口～渋田川合流地点～達上池～纏緑道～吾妻橋〈第2回〉11/1(土)吾妻橋～大堤～土屋橋～弘法の清水～秦野駅〈第3回〉11/8(土)秦野駅～水無川～葛葉川～蓑毛大日堂～蓑毛〈第4回〉11/22(土)蓑毛～大山阿夫利神社下社～大山寺～大山ケーブル下【時間】各回9時30分～16時【参加】往復はがきに住所、氏名、電話番号を記し、10/9までに申込み【定員】30名(4回とも参加できる方に限る) *雨天時順延

○秋のイブニング・ミュージアム・ウィーク「金目川特集」

【内容】金目川をテーマにしたミニ講演会を毎夕実施します。【日程】10/21(火)地形と流路変遷 10/22(水)

金目川水系の遺跡 10/23(木) 金目川の生き物 10/24(金) 金目川と暮らし～水系の雨乞い～ 10/25(土) 治水の歴史【時間】18時～19時【講師】当館学芸員【会場】講堂【参加】自由

○シンポジウム「金目川を語る」

【内容】金目川をフィールドに活動する市民団体と館学芸員が、金目川水系の自然と文化について語り合います。前半は個別報告、後半にシンポジウムを行います。【日時】11月16日(日)13時30分～16時30分【報告者】当館学芸員、柳川勝正氏(金目エコミュージアム副委員長・歴史文化部会長)、柳川三郎氏(金目川水系流域ネットワーク・リーダー)【会場】講堂【参加】自由

○学芸員による展示解説

【日程】10/4(土)、10/5(日)、10/12(日)、10/19(日)、11/9(日)【時間】15時～16時【会場】特別展示室【参加】自由

☆ 第100回記念特別展「金目川の博物誌」の展示内容の紹介(1) ☆

I 章～III章(前半部分)

後半部分は来月紹介します

I 金目川水系の地理

平塚市は川の多い町です。相模川のほかにも覚えておいてほしい川が3つあります。それは、金目川、鈴川、渋田川です。これらの川の源流は、大山から塔ノ岳に至る表丹沢の山々に発します。3つの川は下流で合流すると、花水川と呼ばれ相模湾へ注ぎます。特別展では、支流を含む金目川水系の流域を対象エリアとしました。

この章では航空写真などで金目川水系の上流～下流の地形を概観するとともに、地名や遺跡、村の成り立ちなど人文的な概要も合わせて紹介します。



桜ヶ丘上空から南原の三川合流点付近を望む

II 金目川の生い立ちと変遷

川は、昔からずっと同じところを流れていると思われがちですが、金目川の流れは、長い年月をかけて大きく移り変わりました。

今から約5万年前の金目川は、南の葛川（二宮町）へ流れていました。その後、渋沢断層の活動で大磯丘陵が隆起し、秦野盆地を通して東へ流れるようになりました。近世に入ると、元禄地震（1703）や富士山の宝永噴火（1707）によって河川に砂が堆積し、洪水が頻発します。このため3度にわたる大きな筋替工事がなされました。

この章では地質資料や古文書等により、金目川の流路の変遷を追います。



寛政7年(1795)12月 高麗寺領山林田畑惣絵図
(大磯町郷土資料館蔵 大磯町指定文化財)

III 水害と水防

ふだん穏やかな金目川も、大雨が降ると荒々しい濁流に一変します。かつては度々堤防が決壊し洪水を起こす暴れ川でした。

人々は洪水から村を守るために堤防を堅固に築き、集落の外側に控え土手(控え堤)を築きました。金目川の堤防の修復には、金目川通り二十八ヶ村組合の村々があたりました。28の村々は金目川の水を水田に利用しており、治水の義務を負っていたのです。現在は、水系の3市で金目川水害予防組合を組織し、水源の春岳山を管理しています。

この章では金目川の治水に関する古文書や古写真等で、人々の水害とのたたかいを紹介します。



金目川の堤防決壊時の様子 昭和5年頃 現金旭中学校裏の堤防付近 (平塚市広川 窪田健治氏蔵)

☆第100回記念特別展「金目川の博物誌」の展示内容の紹介(2)☆

IV～VI章(後半部分)

IV 稲作の川

金目川水系の流域は県下一の米どころです。この広い水田を潤しているのが、金目川水系の水です。金目川には、数カ所の取水堰が設置され、川から用水路へ取水し、用水路から水田へ、水田から排水路へ、そして再び川へと、微妙な高低差を利用して水を送っています。雨が降らないと水不足になり、かつてはしばしば水争いが起きました。今も夏には金目川の水が流れなくなるほど、農業用水として利用しつくされています。この章では、絵図や写真により、水利をめぐる歴史と民俗を紹介しています。



土屋橋下堰のセギアゲ (平川直之氏撮影)

V 川と信仰

生活に欠かせない水。人々は川や水の恵みに感謝し、一方で川の氾濫をおそれ、古代から水辺での祭祀を行ってきました。川のほとりや池には水神様や弁天様を祀り、水が涸れないように、また洪水が起きないように祈願しました。水不足は農家にとって死活問題です。日照りが続くと、すぐる思いで雨乞いの儀礼を行いました。雨乞いには、大山の滝へ水をもらいに行くなど様々な方法がとられました。

この章では、古代の祭祀遺物と、水神、雨乞い、伝説にちなむ写真を展示しています。



金目川の水害で亡くなった人の
供養とも伝える南原の舟地藏

VI 川の自然

金目川の土手からは大山と丹沢連山、水田の向こうに富士山を眺めることができ、四季折々の自然が楽しめます。川に下りると、さまざまな生き物に出会えます。夏はアユ釣りの人もよく見かけます。しかし、環境の変化に適應できず、生息地が狭められている種も少なくありません。水系の各河川では、住民有志が川の環境浄化に取り組んでおり、少しずつきれいな川が戻ってきています。

この章では、川原石や石の利用、水辺の昆虫や植物、漁具などを展示し、川と人とのかかわりを振り返ります。



コサギ (岡根武彦氏撮影)

* 金目川水系流域ネットワークなどの展示

廊下では市民グループの活動の様子などを紹介しています。金目川水系流域ネットワークは、東海大学と連携して河川の環境調査や観察会を行っている団体で、川の水温調査やアユの生息調査など、きめの細かい観察調査の成果を展示しています。また、県の湘南地域県政総合センターによる“県民との協働による湘南里川づくり”の活動紹介と、広川の篁島義一さんが描いた金目川の絵を展示しています。



金目川水系流域ネットワークによる
生き物観察会の様子